

～ 豊かな学びの実現 ～

第72回菊花展、大盛況のうちに開催 園芸科学科と普通科が協働して運営



地域住民に大輪菊の特徴を説明する丹原高生(中央)

みんなの情熱花開く

丹原高で菊花展
1000点を展示販売

西条

丹原高校(西条市丹原町願連寺)の生徒が丹精した菊約千点を展示販売する菊花展が26日、校内であり、地域住民らと年に1度の交流を楽しんだ。

午前9時の開場と同時に多くの人が来場。生徒が工夫して育てた懸崖(けんがい)菊や大輪菊をじっくり見て回り、お気に入りを手に入れた。生徒は薦めの花の色や満開になった時の様子を伝え、会話を重ねながら購入を促した。

会場の菊は2月に苗を植え、6月に鉢に移した。7月からの猛暑で葉が枯れることもあったが、鉢にアルミ箔(はく)を巻き付けて温度の上昇を防ぎ、水やりの回数を調節するなど、工夫を重ねて育て上げた。

園芸科学科3年の菊地美結さん(17)と近藤未来さん(18)は「心を込めて育てた菊の魅力を伝えられることにやりがいを感じる。少しでも地域が盛り上がるとうれしいと話した。」

菊花展は園芸科学科の生徒による販売実習で70回以上続く。今回は普通科を含む計約200人が携わり、音楽合奏やバルーンアート体験もあった。

当日に販売しきれなかった鉢は、随時学校で販売している。同校は「これからが見頃を迎える時期なので、まだまだ育てる楽しみがある」と呼びかけている。(伊藤義樹)

丹高は地域に近い学校です。

70年以上の歴史を持つ、地域と学校を結び付ける行事。地域の方からの評価は高く、生徒たちは、更に農業学習に自信と誇りを持って取り組みました。普通科の生徒も準備・運営に参加し、学科横断的に協働し、学校全体で取り組みました。